



# 琉球弧～戦争と平和の最前線

## 生まれ変わる夕張市立診療所

### 市立診療所・介護医療院 新築移転 オープン!!



#### 「心の通った施設に」

8月5日(土) 夕張市、医療社団法人豊生会主催の「夕張市立診療所/介護医療院夕張共用開始記念式典」が行われました。

夕張市長の挨拶に続き、豊生会理事長、市立診療所所長が感謝と喜びの言葉を述べ「これからここが心の通った施設になる」と思いを確認し合いました。

来賓には国会議員や道議、市議、関係者合わせて50名以上の参加。

テープカットの後、内覧会が開かれ一部屋ずつ説明を受けながら施設内を見学。午後からは一般公開も行われました。



診療科目は、総合診療科、整形外科、リハビリテーション科、循環器内科、婦人科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、歯科。

新しく立派な施設に、市民からも「救急車が市外にどんどん降りていくので、これからはここで充実した処置ができるようになれば安心」と期待の声が。

いよいよ9月1日(金)より、新築移転オープンとなります。



8月11日、「明日の平和をつくりだす夕張の会」と「ゆうばり女性9条の会」の共催で、『琉球弧の最前線』映画上映&講演会が、日本キリスト教団夕張教会で開催されました。初めに、アメリカの海兵隊員のブートキャンプ(新兵教育)の訓練の様子や、NHKと共に、入隊したての海兵隊員にインタビューした場面

の最前線』映画が上映され、「貧しいアメリカの若者たちは、将来の大学進学を夢見て入隊し、徹底的な訓練を受け、上官の命令に絶対服従することを教えられ、敵を殺す方法を学びます」と、この映画の監督の一人である藤本幸久さんから、説明がありました。この映画は、馬毛島から与那国島までの弓状に陸上自衛隊のミサイル基地の建設がすすめられている現実を、ドローン撮影した沖縄島の映像を紹介しながら講演しました。七十年前、アメリカ軍が沖縄に上陸し、激しい地上戦が戦われ、今も全国の米軍基地の70%が沖縄に集中。そして現在、ヘノコ基地を建設中。さらに、台湾有事を名目に、沖縄諸島に陸上自衛隊のミサイル基地や弾薬庫が次々に建設されています。最後に「沖縄のオ

の運動の継続が必要」と挨拶し、上映会は終了しました。

### 戦争への準備が始まっている琉球弧

「明日の平和をつくりだす夕張の会」と「ゆうばり女性9条の会」の共催で、『琉球弧の最前線』映画が上映され、「貧しいアメリカの若者たちは、将来の大学進学を夢見て入隊し、徹底的な訓練を受け、上官の命令に絶対服従することを教えられ、敵を殺す方法を学びます」と、この映画の監督の一人である藤本幸久さんから、説明がありました。この映画は、馬毛島から与那国島までの弓状に陸上自衛隊のミサイル基地の建設がすすめられている現実を、ドローン撮影した沖縄島の映像を紹介しながら講演しました。七十年前、アメリカ軍が沖縄に上陸し、激しい地上戦が戦われ、今も全国の米軍基地の70%が沖縄に集中。そして現在、ヘノコ基地を建設中。さらに、台湾有事を名目に、沖縄諸島に陸上自衛隊のミサイル基地や弾薬庫が次々に建設されています。最後に「沖縄のオ

# 第36回「夕張夏まつり」 3年ぶりにあちこちで♪

8月5日、36回目の「夕張夏まつり」が開催され、阿保おどりパレードが久々の再開!!

当日は雨予報で、ギリギリまで危ぶまれましたが、奇跡的に晴れ歩行者天国となった道路で各チームが練り歩きました。花火大会のクライマックスには大きな歓声が響きました。屋台村もオープン

し、家族連れや、高齢者施設からもつめかけて、大賑わい。8月13日・14日も市内各所で盆踊りが行われました。

コロナ禍以来、お祭りを控えていた町内会も地域のためにと準備。踊った方に地域の商品券や、抽選券で豪華景品など、それぞれの工夫が光っています。



踊りましょ♪

4年ぶりの空手演武



久しぶりの盆踊りのお囃子や太鼓、手拍子に浴衣姿…。夏らしさを存分味わいました。

## くずさんの 夕張歴史散歩(198)

炭鉱の日々の暮らし (炭住2)

### 棟割り長屋

現代では聞きなれない、まったく想像もつかない長屋ですが、棟木から二つ割りにし(棟を境に割るので棟割り)それを今度は横に十〜八つに仕切り住居としました。

つまり一棟で二十戸か十六戸の長屋

で、ハーモニカ長屋と呼ばれていました。挿入図(安部秀一さん作画)で想像してください。

### 人間の住むところでない

内部の造りもまた、すさまじいものだったようです。当時の様子を、古老は\*「一戸は八畳一間で米俵を裂いたものを敷き、その上にゴザを敷いた程度。流し場は土間で、出入り口は障子張りなので家の中はいつも薄暗かった。それよりも我慢ができたのは、隣との仕切り壁が六尺の四分板一枚ばりなんで、背の高いものなら覗き見もできるし、夫婦喧嘩は長屋じゅう筒抜けだった。

夜に寝ていると屋根の合掌組みが見えたもんだったが、冬になると寒くてたまらんから、そのうちに誰彼となく細木や針金を細工して天井を作りました。新聞紙を何枚も貼り合わせたもんだ。少しは暖かくなったが雪解けになると、今度はすがもりの心配だ。とつても人間の住む所でなかった。」と語っています。



\*棟割り長屋の画

\*夕張・働く者の歴史を記録する会編「わが夕張」より抜粋



岩渕 友「国会かけある記」  
参議院議員

### 岩渕 友

### 汚染水海洋放出許さない

東京電力福島第一原発事故によって発生した汚染水の海洋放出をめぐる、岸田首相が福島第一原発を視察し、全漁連との面会の後、関係閣僚会議で放出時期を決定すると報道されています。政府と東京電力は、2015年に福島県の漁業者と「関係者の理解なしにはいかなる処分もしない。タンク保管を継続する」と約束し、漁業者は「反対」の意思を示し続けています。ところが、政府は放出の時期をこの夏頃とした方針を変えようとしません。

これをうけて海洋放出に反対する怒りの行動が、国会でも連日のように行われています。この問題は漁業者だけ、福島県だけ、日本だけの問題ではありません。政府は、「約束は守る」と繰り返しますが、「やめる」とは言いません。「丁寧に説明を続ける」と言いますが、「政府の説明は不十分」は7、8割にのぼっています。政府は、海洋放出以外の方法へとすぐにでも舵を切ることです。

大型タンクで保管する案をはじめ、いくつもの対策が示されています。何より汚染水の発生そのものを抜本的に減らさなければタンクはいつまでもなくなりません。その対策も示されているのに、政府も東京電力も海洋放出ありきです。復興と廃炉のあり方について、福島では様々な立場の人が話し合う「円卓会議」も開催されています。政府はこの声を聞くとうとせず決めようとしています。海洋放出など許されません。みなさんと反対の声をあげ続けます。